

全員協議会 会議録（要点筆記）

平成27年6月24日（水）

午後 1時30分 開会

午後 2時01分 閉会

場所 : 全員協議会室

[上程議案の補足説明]

1 平成26年度半田市各会計の決算見込みについて

滝本均総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

2 「ミニポートピア栄」の建設について

滝本均総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

3 「知多南部広域環境センター」の環境影響評価方法書の縦覧及び説明会の開催について

笠井厚伸市民経済部長：資料に基づき説明

質疑なし

4 避難行動要支援者支援制度について

藤田千晴福祉部長：資料に基づき説明

加藤美幸議員：避難行動要支援者の中で、⑤番の上記①から④に掲げる方以外で本人の申請によりというところがありますが、特に小さいお子さんをお持ちの方、例えば、多子世帯あるいは双子ちゃん、三つ子ちゃんとかそういうような方たちに、積極的にこの制度のことについてPRするようなことはありますでしょうか。

藤田千晴福祉部長：今のご質問ですが、今回は身体の不自由な方を主という形でやらせていただきますが、ここに今言われた通り、それ以外の方という方には、自分で不安があったりした場合、地域の方に話をしたり、逆に手助けが必要であれば届出を出していただいて、という形で考えておりますので、積極的にというのをどの程度、というのはありますが、一応その範囲も含めて、ここには書かせていただいております。

5 第2次半田市立半田病院改革プラン平成26年度点検評価調書について

三浦幹広病院事務局長：資料に基づき説明

新美保博議員：8ページの評価できる点のところ、新病院建設構想に向けた取り組みが具体化したとある。次の9ページには、新病院建設構想も具現化されて、目標は達成したものと考える。という文言があるんですけども、これに対するこの答えというものはどこにあるのか。何を持ってこういうことを言えたのか、言えるのか。具体化したというのは、何が具体化されたのか。具現化したというのは、何が具現化したのか。ちょっと教えていただきたい。

三浦幹広病院事務局長：こちらの評価につきましては、委員さんの方が評価しております。おそらく、新病院構想も具現化というのは予算が取れて本年度から始まっているあり方検討会を立ち上げて、基本構想をやっと作れるまでに至ったということで、具現化されたものだと評価いただいたものだと思います。それから、同様に新病院建設に向けた取り組みが具体化というのは、やはり予算化してこれから計画を作っていくことがやっとできるようになりましたねということで、こういった評価をいただいたものだと思います。

新美保博議員：8ページの受けた取り組みを具体化したというのはわからんでもないですよ。そういう意味でいえば。その次の9ページは具現化されているわけだから、その具現化されたものは何か。何かものを見て具現されているから、目標達成したとしか言いようがないでしょう。だからそれをみせてよ。その資料はあるんですね。経営評価委員会の何もないところで、病院ができるから具現化したぞという風に評価したわけではないでしょう。であるならば、もちろん参考資料として、こういうものを作ります。こういう形でやります。というものができて初めて、具現化される。具体化と具現化の語源はなんだと聞く必要はないけども。ここに書く以上は、それなりのものがなければ、委員が検討したということにはならないでしょう。

三浦幹広病院事務局長：言葉、具体化とか具現化ということで表現されておりますが、記述して評価いただいた表現そのものをちょっと載せておりますので、こちらでもう少し2種類の言葉を使ってしまったのですが、おそらく具体化も具現化も予算化されて、今後計画がやっと作って進んでいくものだなというところの達成だと思っております。

新美保博議員：答えになってない。委員長が半田市長でしょ。評価委員会の会長は市長だよ。市長がこれを答えてるんだよね。だとするなら、市長、どういうつもりで書いたのか。具体化したのは何で具体化したのか。何で具現化したのか。

榊原純夫市長：先ほど、病院事務局長が申しあげました通り、新しい病院の建設に向けての、具体的な予算化がされてこれからどういうものを作っていこうかという取り組みが形として現れたということに評価をいただいたわけでありまして。これは評価委員の皆さんの総意でこういう表現になったものであります。ですから、少しニュアンスはご指摘の通り違うかもしれませんが、そういうことを評価してこういう文言になっておりますので、私の一存で決めたものでもありませんし、これは全委員さんが合意のもとにこれがまとめられたというものであります。

新美保博議員：構想に向けた取り組みが、具体化された。これは理解できるっていったわけ。予算化をして、今から検討委員会で取り組みを作りましょうということだから、それは一歩前進したのはいいわけ。その隣の9に、構想が具現化したというのには書きすぎではないかということをしているわけ。まだ、構想ができてもない、具現化もされていないところに、具現化したって、なおかつ目標は達成しているものと考えるとするのは、これは書きすぎではないかということなんですよ。それをいっている。

榊原純夫市長：議会の全協の中で、そういうご指摘があったことは次回の経営評価

委員会の方で伝えさせていただきます。

沢田清議員：確認させてください。ホームページに載せるというのは、この評価できる点、評価できない点、白丸黒丸、このまま載せるという意味でよろしかったでしょうか。

三浦幹広病院事務局長：報告書このままズバリ、載せる形になります。

沢田清議員：そうすると、6ページの例えばですけども、下から黒丸の2つ目。パワハラによる離職について、目標を達成できなかったと、ホームページで見たときに、パワハラがあったのかなと確認できてしまいますけども、こういう理解でよろしかったですか。

三浦幹広病院事務局長：パワハラだとか暴言暴力、いろんなことが今、医療安全管理意識などございまして、パワハラについては職員間ということで、月に1件2件ぐらいの報告は上がってきております。それに対しては、相談窓口を設けて、対応している状況でございます。

沢田清議員：そういう相談をされたことに対して、受けたということだけであって、この目標は達成できなかったというのは、離職があったのではなくて、相談を回避することができなかったという理解になるんですか。

三浦幹広病院事務局長：はっきりしたことはなかなかおっしゃられませんが、これが原因で離職する方もお見えになったと思います。

中川健一議員：今の別紙資料の27ページの病院の経営形態の検討というところなんですけども、経営状況や経済・社会情勢を勘案し、転機を迎える際には、最適な経営形態となるよう検討するものとし、当面は地方公営企業法全部適用への移行を図るものとします。という風に書いてあるわけですが、新しく病院を作り直したり、いろいろやる中で、もう少し広げて独立行政法人化にするのか、極端な話、民営化にするのかとか、いろんな周辺の自治体と一緒に公の公立病院にするとか、いろんな方法があるのではないかなと思うんですけども、そういうのは考えていくのか、すごいかなり限定した地方公営企業法全部適用という限定されたもので検討していくのか、そのあたりはどんな感じなんでしょうか。

榊原純夫市長：いろいろな資料の中で協議しまして、今ご指摘の点についても協議をしましたが、それぞれメリット・デメリットもあることから、当面はこういう表現の形でいこうということで合意がされたものであります。